


付表- 4.2.2.17(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No.103)

No.	103
種類	海蝕洞・石灰洞
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 27 日
概要	<p>辺野古崎の北西約 650m に位置する辺野古崎北方海岸の海蝕崖に形成された海蝕洞である。</p> <p>No.104(湧水・浸み出し)と同様数箇所から地下水の浸み出しが認められる。</p>
位置	 <div data-bbox="408 1263 842 1435" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【No.103 観測点座標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緯度:26° 31' 31.2083"</li> <li>・経度:128° 02' 57.2575"</li> <li>・標高(EL):0.684m</li> <li>・標高(DL):1.847m</li> </ul> </div>
形状・構造	<p>幅約 25m、高さ 4~10m 前後の海蝕崖に 3 箇所の半開状の海蝕洞が形成されている。位置の測量は中央の海蝕洞で実施した。海蝕崖の下部は暗褐色を呈する嘉陽層で、上部は黄赤褐色を呈する地層である。No.104(湧水・浸み出し)と同様、数箇所から地下水の浸み出しが認められる。</p>
規模	<p>中央の海蝕洞は、横幅約 1.5m、高さ約 2m、奥行き約 2m の不完全な洞窟で、両側の海蝕洞もほぼ同様の規模であるが、天井がほとんどない不完全な洞窟である。</p>
その他 (保存状態)	<p>海蝕洞手前の波蝕棚の凹部から海蝕洞まで砂(粗砂)が堆積している。</p>

代表地点の周辺4方向からの写真

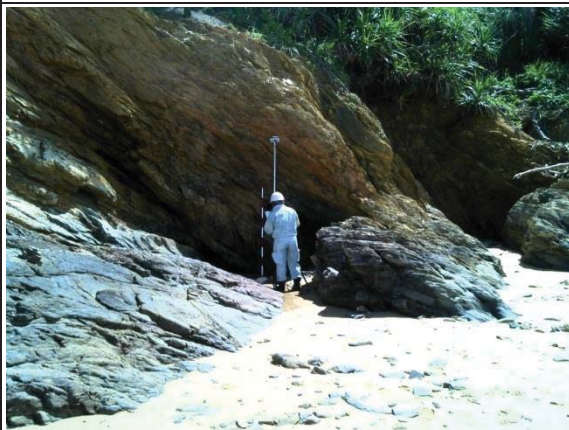
【No.103 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 31.2083"
- ・経度:128° 02' 57.2575"
- ・標高(EL):0.684m
- ・標高(DL):1.847m

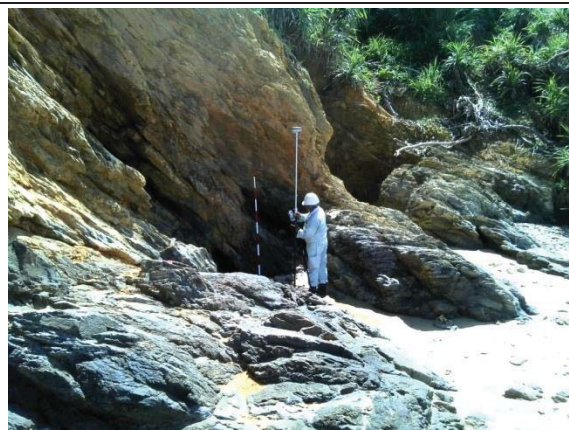


調査地点:No.103(海蝕洞・石灰洞)

撮影日時:2014.6.27 14:12



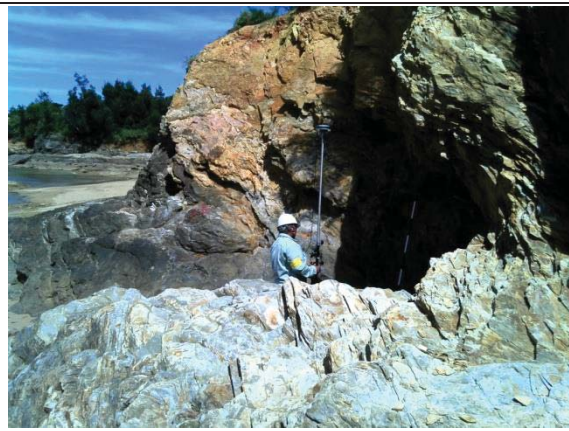
位置情報:緯度 26° 31' 31.67"  
経度 128° 02' 57.39"  
撮影方向:南西



位置情報:緯度 26° 31' 31.54"  
経度 128° 02' 57.51"  
撮影方向:西南西



位置情報:緯度 26° 31' 31.65"  
経度 128° 02' 57.18"  
撮影方向:南南西



位置情報:緯度 26° 31' 31.55"  
経度:128° 02' 22.55"  
撮影方向:東



写真



写真 (No.103①)  
海蝕崖に形成された天井のない半開状の海蝕洞。



写真 (No.103②)  
同上。  
地質は嘉陽層の互層で、上部には赤色土化した洪積世の堆積物が載っている。



写真 (No.103③)  
同上。



写真 (No.103④)  
海蝕崖に形成された天井のない半開状の海蝕洞。洞内の底面には砂礫が堆積している。



写真 (No.103⑤)  
同上。  
周辺の嘉陽層の互層の走向・傾斜は、S20E、16°で、陸側に傾いている。

写真



付表- 4.2.2.18(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果(No.105)

No.	105
種類	湧水・浸み出し
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 27 日及び 7 月 2 日
概要	<p>辺野古崎の北西約 630m に位置する海蝕崖の凹地に形成された天井のない半開状の海蝕洞に地盤から地下水が浸み出している。</p> <p>地下水の浸み出し箇所は、海蝕洞の奥から向かって左側の赤茶けた岩盤が主であり、湧水量は、今回調査した湧水地点の中では湧水量が最も多い。</p>
位置	 <div data-bbox="419 1368 855 1541" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【No.105 観測点座標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緯度: 26° 31' 30.9096"</li> <li>・経度: 128° 02' 57.6417"</li> <li>・標高(EL): 1.003m</li> <li>・標高(DL): 2.166m</li> </ul> </div>
形状・構造	<p>嘉陽層の互層が露出する海蝕崖に海蝕洞が形成され、海蝕洞の奥から海蝕洞の向かって左側の岩盤の割れ目から地下水が浸み出している。海蝕洞の向かって左側は嘉陽層の互層が明瞭に露出し、海蝕洞は脆弱な断層箇所が侵食されたものと推察される。</p>
規模	<p>海蝕洞の大きさは幅約 1.5m、高さ約 2m、奥行き約 3m である。</p>
その他 (保存状態)	<p>他の海蝕洞や湧水・浸み出し箇所と同様、砂が堆積しつつある。</p>

代表地点の周辺4方向からの写真

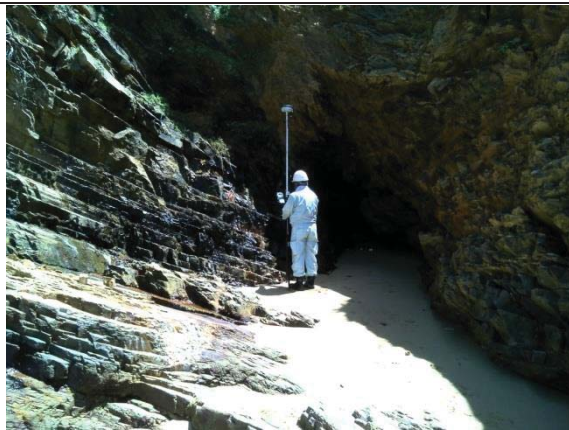
【No.105 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 30.9096"
- ・経度:128° 02' 57.6417"
- ・標高(EL):1.003m
- ・標高(DL):2.166m



調査地点:No.105(湧水・浸み出し)

撮影日時:2014.6.27 13:59



位置情報:緯度 26° 31' 31.15"  
経度 128° 02' 57.90"  
撮影方向:南



位置情報:緯度 26° 31' 31.12"  
経度 128° 02' 57.95"  
撮影方向:南西



位置情報:緯度 26° 31' 31.23"  
経度 128° 02' 57.73"  
撮影方向:南西



位置情報:緯度 26° 31' 31.40"  
経度 128° 02' 57.96"  
撮影方向:南



写真



写真 (No.105①)  
海蝕崖の凹部。  
浸食により天井の  
ない半開状の海蝕  
洞が形成されてい  
る。



写真 (No.105②)  
同上。  
写真の左手に嘉陽  
層の互層の露頭が  
観察できる。

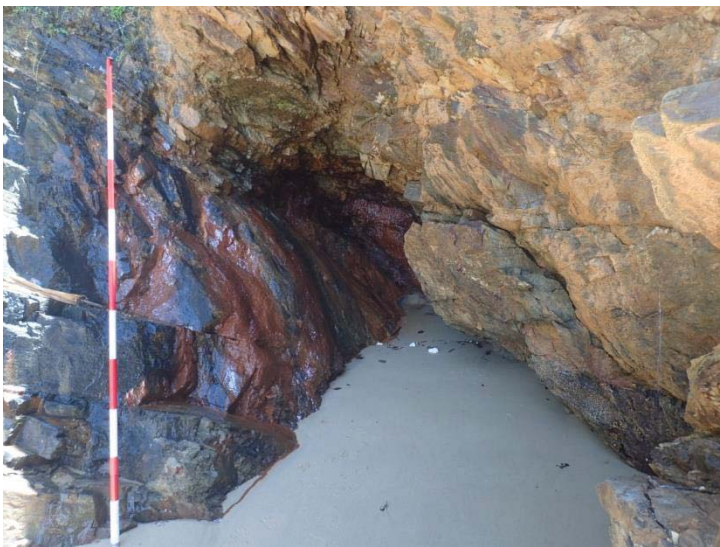


写真 (No.105③)  
同上。  
地下水の浸み出し  
は海蝕洞の奥から  
赤白ポールにかけ  
ての向かって左側  
(赤色に見える)に  
集中している。



写真

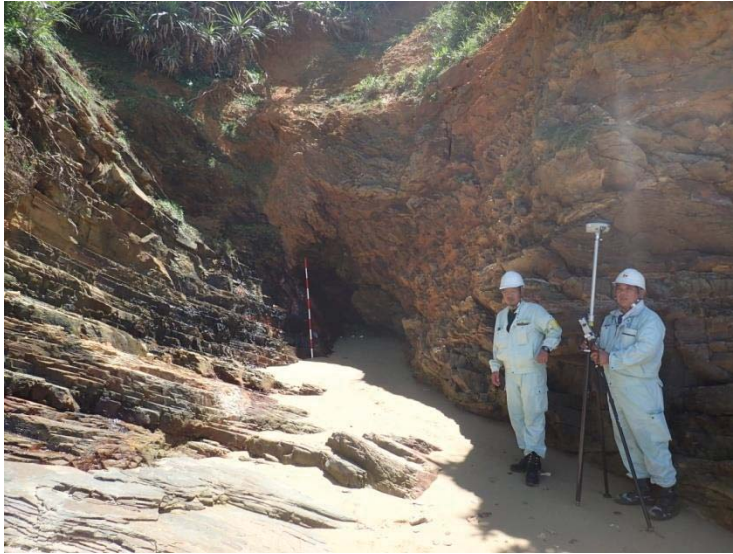


写真 (No.105④)  
地下水の浸み出し  
箇所である海蝕洞  
の奥部(赤白ポー  
ルが立ってある右  
側)。




写真 (No.105⑤)  
海蝕洞の向かって  
左側では嘉陽層の  
互層が観察できる。



写真 (No.105⑥)  
地下水の浸み出  
し。  
岩盤が赤褐色に変  
色している。  
付近では浸み出し  
量が最も多い。



付表- 4.2.2.19(1) 重要な地形・地質の記録の整理結果 (No. 109)

No.	109
種類	ポットホール(甌穴)
調査年月日	平成 26(西暦 2014)年 6 月 27 日
概要	<p>辺野古崎の北西約 590m に位置する波蝕台と背後の海蝕崖の接点直下にできたポットホールであり、周辺の砂浜から2~3m程度高い場所に見られる。</p> <p>波蝕棚の比較的標高の高い箇所でポットホールが見受けられるのは、おそらくポットホール形成後の隆起作用にその要因がありものと考えられる。</p> <p>背後の海蝕崖で、嘉陽層の互層を不整合に覆っている洪積世の堆積物が覆っている露頭も観察できる。</p>
位置	 <div data-bbox="406 1384 842 1563" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【No.109 観測点座標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緯度:26° 31' 31.0439"</li> <li>・経度:128° 03' 00.4244"</li> <li>・標高(EL):1.505m</li> <li>・標高(DL):2.668m</li> </ul> </div>
形状・構造	<p>海岸の波蝕棚の比較的高い場所に形成されたポットホールで、周辺の砂浜から2~3m前後高い場所に位置している。その直下には波蝕棚の侵食地形である谷状の凹地が入りこんでいる。ポットホールの背後の海蝕崖には、嘉陽層の互層を洪積世の土壌が不整合に覆っている露頭が見られる。</p>
規模	<p>ポットホールの大きさは長径約 1.2m、短径約 1.1m、深さ0~70cmで、穴は上部の海蝕崖から崩落した黄褐色を呈する土壌に埋まりつつある。</p>
その他 (保存状態)	<p>ポットホールの背後約 1m に位置する海蝕崖から崩落した土砂で穴が埋まりつつある。</p>

代表地点の周辺4方向からの写真

【No.109 観測点座標】

- ・緯度:26° 31' 31.0439"
- ・経度:128° 03' 00.4244"
- ・標高(EL):1.505m
- ・標高(DL):2.668m



調査地点:No.109(ポットホール)

撮影日時:2014.6.27 13:40



位置情報:緯度 26° 31' 31.28"  
経度 128° 03' 00.46"  
撮影方向:南南東



位置情報:緯度 26° 31' 31.13"  
経度 128° 03' 00.33"  
撮影方向:南東



位置情報:緯度 26° 31' 31.03"  
経度 128° 03' 00.34"  
撮影方向:北東



位置情報:緯度 26° 31' 31.26"  
経度 128° 03' 00.36"  
撮影方向:南東



写真



写真 (No.109①)  
波蝕棚と海蝕崖の接  
点付近の比較的高  
い場所に形成された  
ポットホールである。

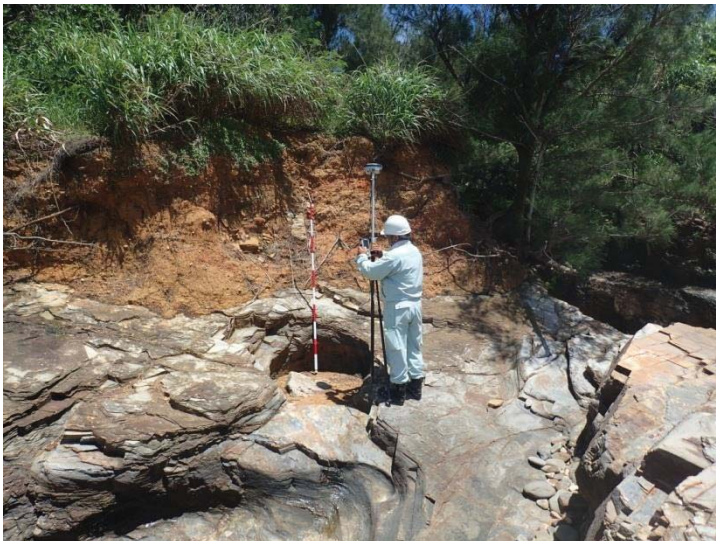


写真 (No.109②)  
同上。



写真 (No.109③)  
同上。



写真



写真 (No.109④)  
ポットホールの大きさは、直径 1.1～1.2m、深さ 0～70cm で、土砂に埋もれつつある。  
背後の海食崖から浸食・流出した土砂が溜まりやすいと考えられる。



写真 (No.109⑤)  
ポットホールの直下には、波蝕棚の浸食地形であると考えられる谷状の凹地が入りこんでいる。



写真 (No.109⑥)  
ポットホールの直径は 1.1～1.2m 前後と大きいですが、背後の海食崖の露頭から浸食・流出してきた赤土で埋まりつつある。